

一般財団法人 民際センター

## 2011年度事業報告書

2011年4月1日から2012年3月31日まで

### 活動報告

#### 1. 奨学金事業

実施国：タイ、ラオス、カンボジア

目的：タイ（中学1～3年生及び一部高校生）、ラオス（小学3～5年生及び一部中学生）  
カンボジア（小学4～6年生）の貧困家庭の子どもたちに対して奨学金支援を行い、万人に基礎教育の機会を与えることを目的とする。

実績：タイ奨学生：5,950名

ラオス奨学生：5,602名

カンボジア奨学生：1,574名

ニュースレター 季刊「ダルニー通信」 発行部数 10,000部×4回

受益者：支援生徒数 13,126名

#### 2. ラオス小学校建設事業

実施国：ラオス

目的：校舎の量的不足、質的劣悪が指摘されているラオスにて校舎を建設し、より多く  
の子どもたちが安心して質の高い教育を受けられるように環境を整備する。

実績：①カムアン県ポンナディ村、6部屋タイプ1棟（5教室+教員室等）

2011年3月着工 2011年11月完成

②カムアン県パーコン村、6部屋タイプ1棟（5教室+教員室等）

2011年3月着工、2012年2月完成

③サワラン県ナタンドン村（進行中）

④サラワン県ナラオン村（進行中）

⑤サラワン県ナノン村（進行中）

⑥サワンナケート県ボンサワン村（進行中）

⑦カムアン県カムアン高校（進行中）

受益者：完成校の生徒約1200人、教員約30人、村人多数

#### 3. ラオス図書事業

実施国：ラオス

目的：教科書以外の本の入手が困難なラオスの学校の子どもたちに、図書セットの寄贈  
などによって本に接する機会を提供し、子どもたちの想像力や思考力を育み、あ  
わせて国語能力の向上を図る。

実績：Lao-Library1000キャンペーンを前年に引き続き展開し、194個の図書セットを

寄贈。

受益者：主に4県（カムアン、サワンナケート、サラワン、セーコーン）に所在の小学校、および中学校、約190校の児童たち。

#### 4. ブーンライ保健衛生事業

実施国：ラオス

目的：病気や怪我をしても病院に通えない子どもたちが大勢いるラオスの学校に医療チームを派遣して、年1回の健康診断を実施する。また、緊急治療が必要な生徒には治療費を補助する。保健衛生の知識を得る場が少ない子どもたちに、病気の予防方法等を教えるワークショップを実施する。

実績：カムアン県の完全校4校、不完全校6校の計13校及びセーコーン県の完全校5校で実施。

受益者：生徒数2,199名（ラオカ150、ノンホイ78、ラマラ196、ポンセイ24、ポンディ47、シビレイ12、ポンサアット25、ヴァンプアパ54、コケット62、ヤンコム83、パクトン202、ピアマイ331、ホーセー421、カンドン308、ヨクトン206）

#### 5. ラオス教師修士留学事業

実施国：ラオス

目的：全国公募から選抜されたラオス人高校教師らをタイ国立コーンケン大学に修士留学させ、国の教育の質的向上を担う人材を育成する。将来的にはラオスの教育機関で教科書や教師用指導要領の改善に携わり、それらの有効活用を以って、ラオス全土での均一化された国際水準の教育の実現を図る。

実績：現在、タイ・コーンケン大学修士課程に留学中の奨学生は10名

【内訳】5期生（2009年入学）：3名

6期生（2010年入学）：3名

7期生（2011年入学準備）：4名

\*既に13名が修士号を取得して卒業

受益者：修士課程修了後、ラオスの教育機関で国の教育の質的向上に携わるため受益者は多数

#### 6. ラオス少数民族教師養成事業

実施国：ラオス

目的：少数民族の教師志望の学生に対し、奨学金を支給することによって、小中学校の教師の育成を促し、ラオスの基礎教育の質の向上を図る。

実績：サワンナケート県サワンナケート教師養成短期大学「中学校教師養成コース」、  
並びにチャンパサック県パクセ教師養成短期大学「中学校教師養成コース奨学生」にて1年間履修

受益者：10名

## 7. OSOP 事業（One School One Project=1校1事業）

実施国：タイ

目的：タイの中学校で、生徒たちが地域の資源の活用や伝統的な技術を学び、かつ収益や生産物を食材に給食を実施して生徒の健康増進を図る。2011～2012年度は洪水で被害を受けた中学校を中心に事業を展開している。

実績：タイ6校（ブリーラム県1校、カーラシン県2校、スリン県2校、ウドンターニー県2校）。

受益者：実施校生徒数約1,500名

## 8. 研修旅行事業

(ア) 主な旅行事業

実施国：タイ、ラオス、カンボジア

目的：支援者が奨学金や学校建設などの支援をしている地域を訪問し、その現状を理解するとともに村泊などを通して相互交流を図る。

実績：

### ① ラオス国際交流の旅（HIS主催）

- 9月ラオス 参加者 13名 訪問県：カムアン県
- 11月ラオス 参加者 4名 訪問県：カムアン県
- 3月ラオス 参加者 4名 訪問県：カムアン県

### ② 委託旅行

- ゴスペル広場 10月ラオス 参加者 10名 サワンナケート県
- 神宮ライオンズ 2月ラオス 参加者 11名 カムアン県
- SWITCH旅行 3月ラオス 参加者 20名 サワンナケート県

### ③ FR関係旅行

- 酒井順子氏（エッセイスト）、ラオスにて支援する奨学生と面会。  
雑誌「新潮45」にエッセイ掲載。

### ④ 個人旅行1名

- 受益者：日本人参加者 名、訪問県では生徒及び村人等多数

(イ) その他の主な旅行事業

- 富士通ユニティ

2002年の組合創立10周年を記念してラオスに校舎を2校建設し、以来、隔年で校舎が建つ村を訪問し、子どもたちや村人と交流。

今年は創立 20 周年を迎えるので大人数で訪問予定。その下見も兼ねて、昨年 11 月、委員長以下 4 名で 2 校を訪問。

- 板倉

群馬県板倉町の「板倉ラオスの会」が 1999 年にラオス・パクトン村に校舎を寄付。以来、隔年で同村を訪問。今年は 7 回目の訪問で 8 名が参加した。前町長や県会議員ら約 50 名が会員で、毎年約 50 名以上のラオスの奨学生を支援している。

- 全日本電線関連産業労働組合連合会（全電線）

1994 年よりタイの奨学生を A タイプで毎年 50～60 名支援している。全電線は 90 年代後半に 1 度タイを訪問していたが、昨年、書記長と執行委員の 2 人が 2 度目のタイ・ブリーラム県で支援している奨学生の視察を行い、改めて支援の意義を確認した。

## 9. 国内活動支援事業（ドナー連絡会活性化事業）

目 的：全国にある地域連絡会の連携を深め、ダルニー奨学金の普及を図る。

実 績：第 11 回全国ドナー連絡会を甲府にて開催。

11/26（土）/27（日）「甲州和飲会議」開催（於：山梨英和中・高校）

【11/26】第 1 部：山梨英和 マンドリン演奏

阿刀田理事講演「国際化とことば」

※一般参加・サイン書籍販売会・朝日新聞記事掲載

第 2 部：民際センターおよび各連絡会活動報告

交流会

\*参加者は第 1 部（約 200 名）・第 2 部（約 20 名）

【11/27】意見交換会 ダルニープレートの活用方法について

閉会后、ワイン工場見学などの交流

## 10. 調査研究事業（ランチ事業関連）

公益財団法人 浦上食品・食文化振興財団から受託、ラオスにおける学校給食制度構築のためのパイロット事業促進のための調査研究を実施し、3 年間の総合計画書と 2012 年度の実施計画書を作成。

### 11. 学用品等の贈呈事業

実施国：タイ

目 的：ダルニー奨学金でタイを支援しているドナーが、支援中の奨学生本人や奨学生が通う学校に対して学用品等のプレゼントセットを贈るサービス。ドナーと奨学生との交流を促進する。

実 績：タイの進級・進学時期、及び、クリスマス・お正月時期にプレゼントを贈る、年 2 回の申込時期を設けており、2011 年度は奨学生本人たちに 79 セット、学校に

14セットのプレゼントセットが贈呈された。

受益者：奨学生数約 80 名、学校 14 校

## 1 2. タイ特別奨学金事業（委託事業）

実施国：タイ

目的：バンコク、チェンマイで実施されている特別奨学金事業のサポート。

貧しいが成績優秀なバンコク、チェンマイの学生に奨学金を提供することで勉学の継続を促す。

実績：バンコク中学生 17 名、高校生 10 名、チェンマイ中学生 26 名、高校生 46 名、ブリラムの高校生 1 名、サムットプラカンの中学生 1 名、プーケットの高校生 1 名の奨学生に奨学金を提供。6 月には現地で奨学金授与式を開催。

受益者：奨学生数約 102 名

## 1 3. 緊急支援事業

### （ア）タイ洪水緊急募金

実施国：日本

目的：タイ洪水被害に伴う日本での緊急募金活動。

実績：タイ洪水に伴い日本での緊急募金活動を実施。カード決済等によるタイ洪水緊急募金を立ち上げ、ダルニー通信・メールマガジン・SNS などにより寄付を募った。また、株式会社カルチャー・コンビニエンス・クラブの T-POINT 募金に「タイ洪水緊急募金」を設置いただき、募金を受け付けた。東日本大震災でタイから支援を行った陸前高田第一中学校においては、被災中にもかかわらず生徒が募金活動を行い、助け合いの連鎖が生まれた。いただいた寄付金（個人・団体で 1,799,255 円、T ポイント募金で 1,089,803 円、合計 2,889,058 円・寄付者総数約 6,300 人）については、タイ事務所に送金し、日頃、教育支援を行なっているタイ東北地方の中でも特に被害の甚大な 5 つの中学校を中心に校舎修理や備品の購入に活用した。

### （イ）タイ洪水お見舞いセット

実施国：日本

目的：タイ洪水に伴い物品等が不足する学校に対するお見舞いセット提供の募金活動

実績：タイ洪水に伴い医薬品・学用品・本・運動用具等が不足した学校に対し、「タイ洪水お見舞いセットプログラム」を企画し、寄付を募った。ダルニー通信に専用の払込チラシを同封、その他ホームページやメールマガジン、SNS にて募金を告知。申込期間は 1 月 31 日から 3 月 31 日、6 月頃に学校へ寄贈、支援者へのお礼状送付を 7 月頃に予定。

## 1 4. 管理（特別寄付）

実施国：日本

目的：東日本大震災の影響による民際センター運営への特別寄付の依頼。

実績：東日本大震災により、海外支援および民際センターへの寄付が厳しさを増す中、既存ドナーの方々に対し手紙にて特別支援のご協力をお願いした。手紙の内容は、秋尾理事長からの「東日本大震災の影響に伴う民際センターへの特別寄付のお願い」及び、EDF-THAI 理事長ソムキッド・スリーサコンからの「親愛なる日本の支援者の皆さまへ」の2通。震災で大変な方々がおられる中、一方では奨学金を待ち望んでいる子どもたちがいること、この活動を継続していくことの意義や使命へのご理解をお願いするものであった。

以上